

蝶理株式会社
代表取締役社長 先瀨 一夫

2021年 年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

2020年は、これまで経験したことがない様々な対応を強いられた一年でした。長期に亘り、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら業務を遂行いただいたことに対して、感謝申し上げます。

2021年は当社創業160周年の年であります。「蝶理」という社名は、幕末の混乱期から本日に至るまで、2度に亘る世界大戦、大恐慌など幾多の困難や当社自体の経営危機をも乗り越えて、脈々と引き継がれてきました。コロナ禍での新年を迎え、私は改めて、160年の重みとともに、「蝶理」という社名に「愛着」と「誇り」を感じています。私たちは、これからも未来に向け「蝶理」の名を守り繋いでいきます。今のコロナ禍は歴史に残る困難の時期ですが、全社一丸となり、必ず乗り越えることができると信じています。

マスクを外した普通の生活、自由な経済活動、海外との往来がいつまでできるようになるのか、依然として予測はできませんが、明るい兆しも見え、積極的な取り組みの姿勢・意識に転じています。一つ目は、2020年11月に主要海外拠点との海外主管者会議をWEB開催しました。出張や帰国がままならず、感染と闘う不自由な中、世界中でがんばってくれている駐在員、スタッフの現状に接し、当社グループの連結事業軸運営がコロナ禍にあってもきちんと機能していることを実感しました。二つ目は、組織編制・人事異動です。繊維第一事業部は4部7課体制を4部9課体制へ編制し、全ての部の名称も変更し、変革に取り組みます。また、化学品本部では営業職として初の女性課長が誕生します。経営政策本部では連結グローバル運営に基づき、国内外での人材の流動化を行います。三つ目は、デジタル化への取り組みです。コロナ禍での働き方に応じて、データ容量拡大・回線速度向上など、利便性向上に向けた環境整備を進めています。

コロナ禍の不安定かつ不透明な状況下でも、これらの3つの取り組み・活動を通じて高い目標を目指すことが出来るのは、これまで事業軸運営で積み上げてきた事業基盤があるからです。この事業基盤に立脚し、中期経営計画で掲げる、新たなステージ(経常利益100億円台の常態化)を目指します。

最後となりましたが、創業160周年となる2021年が、すべてのステークホルダーにとって良い年になるよう、健康に気をつけて、明るく、元気に、一緒に頑張っていきましょう。

以 上